



V

Last Updated: June 30, 2007

voice mailbox owner

voice mailbox unlock

voicemail broadcast message

voicemail broadcast message delete

voicemail broadcast mwi

voicemail broadcast recording time

voicemail broadcast vpim-id

voicemail callerid

voicemail capacity time

voicemail configuration outgoing-email from-address

voicemail conversation address-by

voicemail conversation caller multi-msgs-any-mbx

voicemail conversation caller multi-msgs-same-mbx

voicemail conversation caller recording-prompt

voicemail conversation subscriber msg-properties brief

voicemail conversation subscriber msg-properties day-of-week

voicemail conversation subscriber play-gdm-summary

voicemail default

voicemail default broadcast expiration time

voicemail extension-length (network location id)

voicemail fax restriction

voicemail live-record beep duration

voicemail live-record beep interval

voicemail live-record pilot-number

voicemail live-reply calling-number-rule

voicemail live-reply enable
voicemail live-reply network precedence
voicemail live-reply restriction
voicemail mailbox-selection
voicemail message future delete
voicemail non-subscriber restriction
voicemail notification allow-login
voicemail notification cascading enable
voicemail notification connect-timeout
voicemail notification email attach
voicemail notification enable
voicemail notification owner
voicemail notification preference
voicemail operator telephone
voicemail phone-prefix (network location id)
voicemail recording time
voicemail spoken-name (network location id)
voicemail vcard
voicemail vpim-encoding (network location id)

voice mailbox owner

ユーザまたはグループのメールボックスを作成してメールボックス設定モードを開始するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voice mailbox owner** コマンドを使用します。メールボックスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voice mailbox owner name [size seconds]

no voice mailbox owner name

Mailbox configuration mode:

default

description "text"

disable

expiration days

fax enable

greeting [alternate | standard]

mailboxsize mailbox-size-seconds

messagesize message-size-seconds

no parameter

tutorial

シンタックスの説明

<i>name</i>	メールボックス所有者の名前。
<i>size seconds</i>	(オプション) 秒単位で指定した、メールボックスのストレージサイズ。これは、 mailboxsize と同じ値です。
<i>default</i>	メールボックスのパラメータをシステムのデフォルト値に設定します。
<i>description "text"</i>	テキストによるメールボックスの説明を指定します。テキストは二重引用符 (“”) で囲む必要があります。
<i>disable</i>	メンバーがボイス メッセージにアクセスできないように、メールボックスを非アクティブにします。
<i>expiration days</i>	メッセージをメールボックスに保存しておくことができる日数を指定します。
<i>fax enable</i>	メールボックスが、ファックス ゲートウェイからファックスを受信できるかどうかを指定します。
<i>greeting [alternate standard]</i>	発信者がメールボックスに到達したときにどのグリーティングが再生されるかを指定します。
<i>mailboxsize mailbox-size-seconds</i>	メールボックスのストレージ サイズを秒単位で指定します。これは、 size キーワードと同じ値です。
<i>messagesize message-size-seconds</i>	メールボックスに保存できるメッセージの最大秒数を指定します。
<i>no parameter</i>	特定のパラメータ値の設定を削除します。
<i>tutorial</i>	チュートリアルを再生するかどうかを指定します。デフォルトは enabled です。

コマンドデフォルト

expiration : システム全体の値
mailboxsize : システム全体の値
messagesize : システム全体の値
tutorial : 有効

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

1.0	このコマンドが、Cisco Unity Express ネットワーク モジュールおよび Cisco Unified Communications Manager Express 3.0 で導入されました。
1.1	このコマンドが、拡張統合モジュール (AIM) および Cisco Unified Communications Manager 3.3(3) で実装されました。
1.1.2	このコマンドが、Cisco 2800 シリーズおよび Cisco 3800 シリーズのルータで実装されました。
3.0	ファックス ゲートウェイからファックスを受信できるように変更されました。

使用上のガイドライン

name 値がユーザを指している場合、このコマンドは個人用メールボックスを作成します。*name* 値がグループを指している場合、このコマンドは、複数のユーザおよび他のグループがアクセスできる共用メールボックスを作成します。

ユーザおよびグループは、メールボックスに割り当てる前に設定しておく必要があります。

必要に応じて、メールボックス所有者は、Telephone User Interface (TUI; 電話ユーザ インターフェイス) から標準グリーティングとオプション グリーティングを録音します。メールボックス所有者がメールボックスのグリーティングを録音しなかった場合、Cisco Unity Express は、デフォルトのグリーティングを使用します。

mailbox-size-seconds および *message-size-seconds* の値は、作成するメールボックスの数とボイスメール システムのストレージ容量に依存します。一部のメールボックスは、より多くのメッセージ、またはより長いメッセージを保存できるように、他のメールボックスより大きくする必要があります。たとえば、カスタマー サービス部門では、お客様からのメッセージを保存できるように、より大きなメールボックスを必要とすることがあります。サイズとメッセージ長を割り当てるときは、メールボックスの目的を考えてください。

パラメータを設定するシーケンスはオプションです。

例

次の例は、1 人のユーザ用に作成されたメールボックスを示しています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voice mailbox owner user7
se-10-0-0-0(config-mailbox)# description "User 7's mailbox"
se-10-0-0-0(config-mailbox)# greeting standard
se-10-0-0-0(config-mailbox)# mailboxsize 360
se-10-0-0-0(config-mailbox)# messagesize 150
se-10-0-0-0(config-mailbox)# expiration time 21
se-10-0-0-0(config-mailbox)# no tutorial
se-10-0-0-0(config-mailbox)# exit
se-10-0-0-0(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
groupname	Cisco Unity Express グループを設定します。
show voicemail	ボイスメールボックスを表示します。
username (設定)	Cisco Unity Express のユーザを設定します。
voicemail default	システム全体のデフォルト ボイスメールボックス値を設定します。

voice mailbox unlock

ボイスメールボックスのロックを解除するには、Cisco Unity Express EXEC モードで **voice mailbox unlock** コマンドを使用します。

```
voice mailbox unlock {owner name | telephonenumber tel-number}
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
<i>owner name</i>		メールボックス所有者の名前。共用メールボックスの場合、グループメンバーの名前ではなく、所有者の名前です。
<i>telephonenumber tel-number</i>		メールボックスに割り当てる電話番号。

コマンドモード Cisco Unity Express EXEC

コマンド履歴	Cisco Unity Express リリース	変更点
	1.0	このコマンドが、Cisco Unity Express ネットワーク モジュールおよび Cisco Unified Communications Manager Express 3.0 で導入されました。
	1.1	このコマンドが、拡張統合モジュール (AIM) および Cisco Unified Communications Manager 3.3(3) で実装されました。
	1.1.2	このコマンドが、Cisco 2800 シリーズおよび Cisco 3800 シリーズのルータで実装されました。

使用上のガイドライン メールボックスがロックされた場合、所有者には、メールボックスが使用できないことを知らせるメッセージが再生されます。

例 次の例では、個別メールボックスのロックが解除されます。

```
se-10-0-0-0> enable
se-10-0-0-0# voice mailbox unlock owner user3
```

次の例では、共用メールボックスのロックが解除されます。

```
se-10-0-0-0> enable
se-10-0-0-0# voice mailbox unlock owner sales
```

次の例では、内線番号を使用してメールボックスのロックが解除されます。

```
se-10-0-0-0> enable
se-10-0-0-0# voice mailbox unlock telephonenumber 61122
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show voicemail	設定されているメールボックスのプロパティを表示します。
	voice mailbox owner	メールボックスを設定します。

voicemail broadcast message

ブロードキャストメッセージの開始時刻と終了時刻を設定するには、Cisco Unity Express EXEC モードで **voicemail broadcast message** コマンドを使用します。

```
voicemail broadcast message message-id {starttime time date | endtime time date}
```

シンタックスの説明

<i>message-id</i>	ブロードキャストメッセージの符号化 ID。メッセージ ID を取得するには、 show voicemail broadcast messages コマンドを使用します。
<i>starttime time date</i>	開始時刻と開始日。time は 24 時間制の形式で、date の形式は YYYY-MM-DD です。
<i>endtime time date</i>	終了時刻と終了日。time は 24 時間制の形式で、date の形式は YYYY-MM-DD です。

コマンドモード

Cisco Unity Express EXEC

コマンド履歴

Cisco Unity Express リリース	変更点
2.1	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、ブロードキャストメッセージの開始時刻と終了時刻が変更されます。

```
se-10-0-0-0# voicemail broadcast message JMX0824L4R4-NM-FOC08221WSQ-1103139552166-NBCM
starttime 10:00 2004-09-15
```

```
se-10-0-0-0# voicemail broadcast message JMX0824L4R4-NM-FOC08221WSQ-1103139552166-NBCM
endtime 15:30 2004-09-16
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail broadcast messages	ローカル システム上にあるすべてのブロードキャストメッセージをメッセージ ID を含めて表示します。
show voicemail mailboxes	ブロードキャストメッセージを含めて、すべてのボイスメールボックスの詳細を表示します。
show voicemail usage	ブロードキャストメッセージを含めて、ボイスメールの使用状況を表示します。
voicemail broadcast message delete	ブロードキャストメッセージを削除します。
voicemail broadcast mwi	ブロードキャストメッセージに対する MWI ライトを有効にします。
voicemail broadcast recording time	ブロードキャストメッセージの最大長を設定します。
voicemail broadcast vpim-id	ネットワーク ロケーションの VPIM ID を設定します。
voicemail default broadcast expiration time	ブロードキャストメッセージの有効期間を設定します。

voicemail broadcast message delete

ブロードキャスト メッセージを削除するには、Cisco Unity Express EXEC モードで **voicemail broadcast message delete** コマンドを使用します。

voicemail broadcast message *message-id* delete

シンタックスの説明	<i>message-id</i>	ブロードキャスト メッセージの符号化 ID。メッセージ ID を取得するには、 show voicemail broadcast messages コマンドを使用します。システムのすべてのブロードキャスト メッセージを削除するには、コマンドからこの引数を省略します。
------------------	-------------------	--

コマンドモード Cisco Unity Express EXEC

コマンド履歴	Cisco Unity Express リリース	変更点
	2.1	このコマンドが導入されました。
	3.0	システムのすべてのブロードキャスト メッセージを削除できるように変更されました。

例 次の例では、ブロードキャスト メッセージが削除されます。

```
se-10-0-0-0# voicemail broadcast message JMX0824L4R4-NM-FOC08221WSQ-1103139552166-NBCM delete
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show voicemail broadcast messages	ローカル システム上にあるすべてのブロードキャスト メッセージをメッセージ ID を含めて表示します。
	show voicemail mailboxes	ブロードキャスト メッセージを含めて、すべてのボイスメールボックスの詳細を表示します。
	show voicemail usage	ブロードキャスト メッセージを含めて、ボイスメールの使用状況を表示します。
	voicemail broadcast message	ブロードキャスト メッセージの開始時刻および終了時刻を設定します。
	voicemail broadcast mwi	ブロードキャスト メッセージに対する MWI ライトを有効にします。
	voicemail broadcast recording time	ブロードキャスト メッセージの最大長を設定します。
	voicemail broadcast vpim-id	ネットワーク ロケーションの VPIM ID を設定します。
	voicemail default broadcast expiration time	ブロードキャスト メッセージの有効期間を設定します。

voicemail broadcast mwi

ボイスメールボックスがブロードキャスト メッセージを受信したときにメッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) がオンになるようにするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail broadcast mwi** コマンドを使用します。MWI ライトを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail broadcast mwi

no voicemail broadcast mwi

シンタックスの説明 このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

デフォルト デフォルトでは無効になっています。

コマンドモード Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

リリース

変更点

2.1

このコマンドが導入されました。

例 次の例は、ブロードキャスト メッセージに対する MWI ライトを有効にする方法を示しています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail broadcast mwi
se-10-0-0-0(config)# end
```

次の例は、ブロードキャスト メッセージに対する MWI ライトを無効にする方法を示しています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# no voicemail broadcast mwi
se-10-0-0-0(config)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail broadcast messages	ローカル システム上にあるすべてのブロードキャスト メッセージをメッセージ ID を含めて表示します。
show voicemail mailboxes	ブロードキャスト メッセージを含めて、すべてのボイスメールボックスの詳細を表示します。
show voicemail usage	ブロードキャスト メッセージを含めて、ボイスメールの使用状況を表示します。
voicemail broadcast message	ブロードキャスト メッセージの開始時刻および終了時刻を設定します。
voicemail broadcast message delete	ブロードキャスト メッセージを削除します。
voicemail broadcast recording time	ブロードキャスト メッセージの最大長を設定します。
voicemail broadcast vpim-id	ネットワーク ロケーションの VPIM ID を設定します。
voicemail default broadcast expiration time	ブロードキャスト メッセージの有効期間を設定します。

voicemail broadcast recording time

ローカル システムのブロードキャスト メッセージの最長録音時間を設定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail broadcast recording time** コマンドを使用します。録音時間をデフォルト値に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail broadcast recording time *broadcast-length*

no voicemail broadcast recording time

シンタックスの説明	<i>broadcast-length</i> ブロードキャスト メッセージの最大長（秒単位）。有効な値の範囲は 10 ～ 3600 です。
------------------	--

デフォルト	900 秒
--------------	-------

コマンドモード	Cisco Unity Express 設定
----------------	------------------------

コマンド履歴	Cisco Unity Express
	リリース 変更点
2.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	ブロードキャスト メッセージの長さを変更するには、新しい長さの値を指定して、このコマンドを使用します。
-------------------	---

この値を表示するには、**show run** コマンドを使用します。出力には、次のようなエントリが含まれます。

```
voicemail default mailboxsize 3000
voicemail broadcast recording time 2240
```

例	次の例では、ブロードキャスト メッセージの長さが 2240 秒に、有効期間が 2 日に設定されます。
----------	--

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail broadcast recording time 2240
se-10-0-0-0(config)# voicemail default broadcast expiration time 2
se-10-0-0-0(config)# exit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show voicemail broadcast messages	ローカル システム上にあるすべてのブロードキャスト メッセージをメッセージ ID を含めて表示します。
	show voicemail limits	ブロードキャスト メッセージを含めて、ボイス メールボックスおよびメッセージに関する制限を表示します。
	show voicemail mailboxes	ブロードキャスト メッセージを含めて、すべてのボイス メールボックスの詳細を表示します。
	show voicemail usage	ブロードキャスト メッセージを含めて、ボイス メールの使用状況を表示します。

コマンド	説明
voicemail broadcast message	ブロードキャストメッセージの開始時刻および終了時刻を設定します。
voicemail broadcast message delete	ブロードキャストメッセージを削除します。
voicemail broadcast mwi	ブロードキャストメッセージに対する MWI ライトを有効にします。
voicemail broadcast vpim-id	ネットワーク ロケーションの VPIM ID を設定します。
voicemail default broadcast expiration time	ブロードキャストメッセージの有効期間を設定します。

voicemail broadcast vpim-id

ローカル システムでブロードキャスト メッセージの Voice Profile for Internet Messaging (VPIM; インターネット メッセージ用音声プロファイル) ID を設定するには、Cisco Unity Express ロケーション設定モードで **voicemail broadcast vpim-id** コマンドを使用します。VPIM ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail broadcast vpim-id *vpim-id*

no voicemail broadcast vpim-id *vpim-id*

シンタックスの説明

<i>vpim-id</i>	ブロードキャスト メッセージの VPIM ID。有効な VPIM ID には、英字、数字、下線 (_)、ダッシュ (-)、およびドット (.) を使用できます。最大長は 32 文字です。
----------------	---

コマンドモード

Cisco Unity Express ロケーション設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

リリース	変更点
2.1	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、ネットワーク ロケーション 150 のブロードキャスト メッセージの VPIM ID が ny-270 に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# network location id 150
se-10-0-0-0(config-location)# voicemail broadcast vpim-id ny-270
se-10-0-0-0(config-location)# end
se-10-0-0-0(config)# exit
```

次の例では、VPIM ID が ny-270 の、ネットワーク ロケーション 150 のブロードキャスト メッセージが削除されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# network location id 150
se-10-0-0-0(config-location)# no voicemail broadcast vpim-id ny-270
se-10-0-0-0(config-location)# end
se-10-0-0-0(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail broadcast messages	ローカル システム上にあるすべてのブロードキャスト メッセージをメッセージ ID を含めて表示します。
show voicemail mailboxes	ブロードキャスト メッセージを含めて、すべてのボイスメールボックスの詳細を表示します。
show voicemail usage	ブロードキャスト メッセージを含めて、ボイスメールの使用状況を表示します。
voicemail broadcast message	ブロードキャスト メッセージの開始時刻および終了時刻を設定します。
voicemail broadcast message delete	ブロードキャスト メッセージを削除します。
voicemail broadcast mwi	ブロードキャスト メッセージに対する MWI ライトを有効にします。

コマンド	説明
voicemail broadcast recording time	ブロードキャストメッセージの最大長を設定します。
voicemail default broadcast expiration time	ブロードキャストメッセージの有効期間を設定します。

voicemail callerid

着信ボイスメールメッセージの発信者 ID 情報の再生を有効にするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail callerid** コマンドを使用します。発信者 ID の再生を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail callerid

no voicemail callerid

シンタックスの説明 このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

デフォルト 発信者 ID 情報の再生は無効になっています。

コマンドモード Cisco Unity Express 設定

Cisco Unity Express	
リリース	変更点
2.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 外線からの着信ボイスメールメッセージを受信すると、システムは、関連付けられた発信者 ID 情報をローカルディレクトリ内のエントリと照合します。一致するものが見つからない場合、発信者 ID を再生するようにシステムが設定されていれば、受信者がメッセージを聞くときに、システムはメッセージエンベロープにある送信者の電話番号を再生します。発信者 ID 情報を再生するようにシステムが設定されていない場合、システムはメッセージエンベロープの「Unknown Caller」を再生します。

Cisco Unity Express は、発信者 ID 情報が有効であることを確認しません。その機能は、電話局 (CO) と着信トランク設定に依存します。また、ローカルシステムは、ローカル Cisco Unity Express ディレクトリに設定されていない Cisco Unified Communications Manager Express 内線番号または Cisco Unified Communications Manager 内線番号の発信者 ID 情報を再生します。

デフォルトでは、発信者 ID ステータスは無効になっています。GUI の **Defaults > Voice Mail** オプションを使用して、発信者 ID 情報の再生を有効または無効にすることもできます。



(注) 外線通話は、Cisco Unity Express ユーザディレクトリに表示されない電話番号すべてが該当します。外線通話の発信元として考えられるのは、地域の電話会社、IP 電話、または H.323 ゲートウェイです。これらの発信元は、発信者 ID 情報を Cisco Unity Express システムに提供するように設定されている必要があります。

例

次の例は、ローカル システムで発信者 ID 情報を有効にする方法を示しています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail callerid
se-10-0-0-0(config)# exit
```

次の例は、ローカル システムで発信者 ID 情報を無効にする方法を示しています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# no voicemail callerid
se-10-0-0-0(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail limits	ブロードキャストメッセージを含めて、ボイスメールボックスおよびメッセージに関する制限を表示します。

voicemail capacity time

録音されるすべてのメッセージおよびグリーティングの最大ストレージ容量を分単位で指定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail capacity time** コマンドを使用します。最大ストレージ容量をデフォルト値に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail capacity time *minutes*

no voicemail capacity time

シンタックスの説明

<i>minutes</i>	ボイスメール システムで録音されるすべてのメッセージとグリーティングの合計ストレージ時間 (分単位)。
----------------	---

デフォルト

デフォルトのストレージ時間は、ライセンスによって決まります。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

リリース	変更点
1.0	このコマンドが、Cisco Unity Express ネットワーク モジュールおよび Cisco Unified Communications Manager Express 3.0 で導入されました。
1.1	このコマンドが、拡張統合モジュール (AIM) および Cisco Unified Communications Manager 3.3(3) で実装されました。
1.1.2	このコマンドが、Cisco 2800 シリーズおよび Cisco 3800 シリーズのルータで実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、録音されるすべてのボイスメール メッセージとグリーティングの最大ストレージ時間を設定します。許容される最大値は、Cisco Unity Express モジュールの容量によって決まります。

例

次の例では、録音されるすべてのボイスメール メッセージとグリーティングの合計容量が 100 時間 (6000 分) に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail capacity time 6000
se-10-0-00-(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail limits	ボイスメールの制限を表示します。
voicemail default	すべての新規メールボックス用のデフォルト値を割り当てます。
voicemail operator telephone	オペレータ メールボックスを作成します。

voicemail configuration outgoing-email from-address

発信電子メールの送信元アドレスを設定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail configuration outgoing-email from-address** を使用します。送信元アドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail configuration outgoing-email from-address *email-address*

no voicemail configuration outgoing-email from-address

シンタックスの説明

email-address 発信電子メール メッセージの From フィールドに使用する電子メール アドレス。デフォルトは *hostname@domain* で、*hostname* は Cisco Unity Express に設定したホスト名、*domain* は Cisco Unity Express に設定したドメイン名です。最大長は 128 文字です。

デフォルト

デフォルトの電子メール アドレスは *cisco-unity-express-hostname@cisco-unity-express-domain-name* です。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

リリース 変更点

2.3.2 このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

送信元アドレスはシステム全体の値で、ユーザごとに設定することはできません。

Cisco Unity Express からの発信電子メール（特に、メッセージ通知）の From フィールドに、指定したアドレスが表示されます。

From アドレスは、GUI の **Defaults > Voice Mail** オプションで設定できます。

例

次の例では、発信電子メールの From フィールドが *myname@mycompany.com* に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail configuration outgoing-email from-address
myname@mycompany.com
se-10-0-0-0(config)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail configuration	Cisco Unity Express から送信される電子メールの From アドレスを表示します。

voicemail conversation address-by

ボイスメール メッセージのデフォルトの宛先指定方法を指定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation address-by** コマンドを使用します。デフォルトの動作に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

voicemail conversation address-by {extension | name}

no voicemail conversation address-by {extension | name}

default voicemail conversation address-by

シンタックスの説明

extension	ボイスメール メッセージを内線で宛先指定します。
name	ボイスメール メッセージを名前で宛先指定します。

コマンドデフォルト

ボイスメールは、名前（名前によるダイヤル機能）で宛先指定します。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express	
バージョン	変更点
3.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ボイスメール メッセージを名前と内線のどちらで宛先指定するかを決定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation address-by** コマンドを使用します。

このコマンドは、以下を含むすべてのメッセージ機能の宛先指定動作を変更します。

- 個別ユーザのメッセージの宛先指定
- 同報リスト
- カスケード
- 複数のボイスメール メッセージ

このコマンドの **no** 形式を使用すると、システムはデフォルトの動作に戻り、ボイスメール メッセージは名前で宛先指定されます。

例

次の例では、ボイスメール メッセージは内線で宛先指定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail conversation address-by extension
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail conversation	ボイスメール通話の設定を表示します。

voicemail conversation caller multi-msgs-any-mbx

任意のメールボックスに発信者が複数のメッセージを残すことができるようにするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation caller multi-msgs-any-mbx** コマンドを使用します。この機能が無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail conversation caller multi-msgs-any-mbx

no voicemail conversation caller multi-msgs-any-mbx

シンタックスの説明 このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

コマンドデフォルト 任意のメールボックスに発信者が複数のメッセージを残すことができる機能は、無効になっています。また、メッセージが 1 つ録音されると、通話は切断されるか自動受付に転送されます。

コマンドモード Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

3.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

任意のメールボックスに発信者が複数のメッセージを残すことができるようにするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation caller multi-msgs-any-mbx** コマンドを使用します。

このコマンドの **no** 形式を使用すると、システムはデフォルトの動作に戻り、メッセージが 1 つ録音されると、通話は切断されるか自動受付に転送されます。

例

次の例では、この機能を有効にしています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail conversation caller multi-msgs-any-mbx
```

関連コマンド

コマンド

説明

show voicemail conversation

ボイスメール通話の設定を表示します。

voicemail conversation caller multi-msgs-same-mbx

同じメールボックスに発信者が複数のメッセージを残すことができるようにするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation caller multi-msgs-same-mbx** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail conversation caller multi-msgs-same-mbx

no voicemail conversation caller multi-msgs-same-mbx

シンタックスの説明 このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

コマンドデフォルト 同じメールボックスに発信者が複数のメッセージを残すことができる機能は、無効になっています。また、メッセージが 1 つ録音されると、通話は切断されるか自動受付に転送されます。

コマンドモード Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

3.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

同じメールボックスに発信者が複数のメッセージを残すことができるようにするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation caller multi-msgs-same-mbx** コマンドを使用します。

このコマンドの **no** 形式を使用すると、システムはデフォルトの動作に戻り、メッセージが 1 つ録音されると、通話は切断されるか自動受付に転送されます。

例

次の例では、この機能を有効にしています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail conversation caller multi-msgs-same-mbx
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail conversation	ボイスメール通話の設定を表示します。

voicemail conversation caller recording-prompt

発信者に対するメッセージ録音用プロンプトの再生を有効にするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation caller recording-prompt** コマンドを使用します。プロンプトを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail conversation caller recording-prompt

no voicemail conversation caller recording-prompt

シンタックスの説明

このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトでは有効になっています（プロンプトが再生されます）。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

リリース	変更点
2.3	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

発信者には、受信者のグリーティングが再生された後、「Record your message after the tone. When you are finished, hang up or press # for more options.」というメッセージが再生されます。このコマンドを使用して、プロンプトの再生を有効または無効にします。

発信者用録音プロンプトのステータスを表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。プロンプトが無効になっている場合、出力に次の行が表示されます。

```
no voicemail conversation caller recording-prompt
```

プロンプトが有効になっている場合は、**show running-config** の出力にステータスが表示されません。

例

次の例では、発信者用録音プロンプトの再生が無効になります。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# no voicemail conversation caller recording-prompt
se-10-0-0-0(config)# end
se-10-0-0-0#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	設定されているシステムパラメータを表示します。

voicemail conversation subscriber msg-properties brief

通常のボイスメール メッセージで、システム全体のメッセージ プロパティ (エンベロープ) のサブセットだけを再生するように指定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation subscriber msg-properties brief** コマンドを使用します。メッセージ プロパティ (エンベロープ) の送信者情報、日付、および時刻の再生をデフォルトの状態に復元するには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

voicemail conversation subscriber msg-properties brief

no voicemail conversation subscriber msg-properties brief

default voicemail conversation subscriber msg-properties brief

シンタックスの説明 このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

コマンドデフォルト メッセージ プロパティ (エンベロープ) の送信者情報、日付、および時刻が再生されます。

コマンドモード Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

3.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

通常のメッセージのボイスメールで、システム全体のメッセージ プロパティ (エンベロープ) のサブセットだけを再生するように指定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation subscriber msg-properties brief** コマンドを使用します。デフォルトでは、標準メッセージ プロパティがすべて再生されます。このコマンドを使用すると、メッセージ プロパティの再生内容から送信者情報、日付、および時刻が除外されます。

短いメッセージ プロパティを有効にした場合、曜日設定が無効になるため、**voicemail conversation msg-properties day-of-week** コマンドの設定との相互作用が発生します。

例 次の例では、メッセージ プロパティの再生内容から送信者情報、日付、および時刻が除外されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail conversation subscriber msg-properties brief
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail conversation subscriber	ボイスメール通話ユーザの設定を表示します。
voicemail conversation msg-properties day-of-week	通常のボイスメール メッセージで、メッセージ プロパティ (エンベロープ) の曜日情報の再生を含めます。

voicemail conversation subscriber msg-properties day-of-week

通常のボイスメール メッセージで、メッセージ プロパティ (エンベロープ) の曜日情報の再生を含めるには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation subscriber msg-properties day-of-week** コマンドを使用します。メッセージ プロパティ (エンベロープ) の曜日情報の再生を削除するには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

voicemail conversation subscriber msg-properties day-of-week

no voicemail conversation subscriber msg-properties day-of-week

default voicemail conversation subscriber msg-properties day-of-week

シンタックスの説明

このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

コマンドデフォルト

メッセージ プロパティ (エンベロープ) の曜日情報の再生は無効になっています。

コマンド モード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

3.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

通常のボイスメール メッセージで、メッセージ プロパティ (エンベロープ) の曜日情報を再生するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation subscriber msg-properties day-of-week** コマンドを使用します。デフォルトでは、曜日プロンプトの再生は無効です。このコマンドを使用すると、メッセージ プロパティ (エンベロープ) で再生される送信日および受信日の一部として、曜日が再生されます。

短いメッセージ プロパティを有効にした場合、曜日設定が無効になるため、**voicemail conversation msg-properties brief** コマンドの設定との相互作用が発生します。

例

次の例では、メッセージ プロパティの再生で、曜日情報の再生が有効になります。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail conversation subscriber msg-properties day-of-week
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail conversation subscriber	ボイスメール通話ユーザの設定を表示します。
voicemail conversation msg-properties brief	通常のボイスメール メッセージで、システム全体のメッセージ プロパティ (エンベロープ) のサブセットのみが再生されることを指定します。

voicemail conversation subscriber play-gdm-summary

ユーザに関連付けられているすべての GDM で、新しいメッセージの要約の再生を有効にするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation subscriber play-gdm-summary** コマンドを使用します。この機能が無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail conversation subscriber play-gdm-summary

no voicemail conversation subscriber play-gdm-summary

シンタックスの説明 このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

コマンドデフォルト ユーザに関連付けられているすべての GDM における新しいメッセージの要約の再生は、無効になっています。

コマンドモード Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

3.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ユーザに関連付けられているすべての GDM で、新しいメッセージの要約を再生するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail conversation subscriber play-gdm-summary** コマンドを使用します。

この機能は、システム レベルで有効にできます。

例

次の例では、この機能を有効にしています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail conversation subscriber play-gdm-summary
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail conversation	ボイスメール通話の設定を表示します。

voicemail default

すべての新規メールボックス用のデフォルト値を割り当てるには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail default** コマンドを使用します。デフォルト値をシステムのデフォルトに設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
voicemail default {expiration time days | language xx_YY | mailboxsize mailbox-size-seconds |
messagesize message-size-seconds}
```

```
no voicemail default {expiration time | language | mailboxsize | messagesize}
```

シンタックスの説明

<i>expiration time</i> <i>days</i>	メッセージがメールボックスに保存されてからボイスメールシステムによって削除されるまでの日数を設定します。
<i>language</i> <i>xx_YY</i>	ローカルの Cisco Unity Express システムのボイスメールプロンプトで使用する言語を指定します。Cisco Unity Express は、システムで1つの言語をサポートします。使用可能な言語のリストについては、『 Release Notes for Cisco Unity Express 2.3 』を参照してください。
<i>mailboxsize</i> <i>mailbox-size-seconds</i>	メールボックスに保存されるメッセージの最大秒数を設定します。最大メールボックスサイズは、インストールされているソフトウェアライセンスサイズに依存します。
<i>messagesize</i> <i>message-size-seconds</i>	メールボックスに保存される発信者のメッセージの最大秒数を設定します。有効な値の範囲は 10 ~ 3600 です。

デフォルト

expiration time : 30 日
language : インストールされている言語
mailboxsize : 3000 秒
messagesize : 60 秒

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express リリース	変更点
1.0	このコマンドが、Cisco Unity Express ネットワーク モジュールおよび Cisco Unified Communications Manager Express 3.0 で導入されました。
1.1	このコマンドが、拡張統合モジュール (AIM) および Cisco Unified Communications Manager 3.3(3) で実装されました。
1.1.2	このコマンドが、Cisco 2800 シリーズおよび Cisco 3800 シリーズのルータで実装されました。
2.0	language オプションが、アメリカ英語以外の言語を含むように拡張されました。

使用上のガイドライン

新しい個別メールボックスまたは共用メールボックスのデフォルト値を割り当てます。これらの値は後で、特定のユーザまたはメールボックス用に別の値に変更できます。

例

次の例では、新規メールボックス用のデフォルト値が設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail default expiration time 15
se-10-0-0-0(config)# voicemail default mailboxsize 360
se-10-0-0-0(config)# voicemail default messagesize 90
se-10-0-0-0(config)# voicemail default language de_DE
se-10-0-0-0(config)# end
```

次の例では、デフォルトのメールボックス有効期間がシステムのデフォルトに設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# no voicemail default expiration time
se-10-0-0-0(config)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail limits	ブロードキャスト メッセージを含めて、ボイスメールボックスおよびメッセージに関する制限を表示します。
voicemail capacity time	ボイスメール システムの最大ストレージ容量を設定します。
voicemail operator telephone	オペレータ メールボックスを作成します。

voicemail default broadcast expiration time

ローカル システムのブロードキャスト メッセージの有効期間を設定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail default broadcast expiration time** コマンドを使用します。有効期間をデフォルト値に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail default broadcast expiration time *broadcast-days*

no voicemail default broadcast expiration time

シンタックスの説明	<i>broadcast-days</i>	システムがブロードキャスト メッセージを保存する日数。最大値は 365 です。
------------------	-----------------------	---

デフォルト	30 日
--------------	------

コマンドモード	Cisco Unity Express 設定
----------------	------------------------

コマンド履歴	Cisco Unity Express
	リリース 変更点
2.1	このコマンドが導入されました。

例 次の例では、ブロードキャスト メッセージの長さが 20 秒に、有効期間が 2 日に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail broadcast recording time 20
se-10-0-0-0(config)# voicemail default broadcast expiration time 2
se-10-0-0-0(config)# exit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show voicemail broadcast messages	ローカル システム上にあるすべてのブロードキャスト メッセージをメッセージ ID を含めて表示します。
	show voicemail limits	ブロードキャスト メッセージを含めて、ボイスメールボックスおよびメッセージに関する制限を表示します。
	show voicemail mailboxes	ブロードキャスト メッセージを含めて、すべてのボイスメールボックスの詳細を表示します。
	show voicemail usage	ブロードキャスト メッセージを含めて、ボイスメールの使用状況を表示します。
	voicemail broadcast message	ブロードキャスト メッセージの開始時刻および終了時刻を設定します。
	voicemail broadcast message delete	ブロードキャスト メッセージを削除します。
	voicemail broadcast mwi	ブロードキャスト メッセージに対する MWI ライトを有効にします。
	voicemail broadcast recording time	ブロードキャスト メッセージの最大長を設定します。
	voicemail broadcast vpim-id	ネットワーク ロケーションの VPIM ID を設定します。

voicemail extension-length (network location id)

ネットワーク ロケーションの内線番号の桁数を設定するには、Cisco Unity Express ロケーション設定モードで **voicemail extension-length** コマンドを使用します。内線番号の桁数に関する設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail extension-length {*number* | *max number* | *min number*}

no voicemail extension-length

シンタックスの説明		
<i>number</i>		ロケーションの内線番号の桁数を設定します。
<i>max number</i>		内線番号の最大桁数を設定します。
<i>min number</i>		内線番号の最小桁数を設定します。

デフォルト 内線番号のデフォルトの最小桁数は 2 で、最大桁数は 15 です。

コマンド モード Cisco Unity Express ロケーション設定

コマンド履歴	Cisco Unity Express	リリース	変更点
	2.0		このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 内線番号の長さを固定の桁数で指定するには、**voicemail extension-length number** コマンドを使用します。内線番号の最大または最小の桁数を指定するには、**max** キーワードまたは **min** キーワードを使用します。

例 次の例では、ボイスメールの内線番号の桁数が 6 桁に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# network location id 9
se-10-0-0-0(config-location)# voicemail extension-length 6
```

次の例では、ボイスメールの内線番号の最大桁数が 7 桁に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# network location id 9
se-10-0-0-0(config-location)# voicemail extension-length max 7
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show network detail location id	特定のロケーションの設定を表示します。

voicemail fax restriction

規制テーブルをファックス機能に関連付けるには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail fax restriction** コマンドを使用します。関連付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail fax restriction *table-name*

no voicemail fax restriction *table-name*

シンタックスの説明

table-name ファックス機能に関連付ける規制テーブル。

コマンドデフォルト

ファックス機能に関連付けられている規制テーブルはありません。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

3.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

規制テーブルをファックス機能に関連付けるには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail fax restriction** コマンドを使用します。

指定された規制テーブルがシステムに存在しない場合は、エラーメッセージが表示されます。規制テーブルを作成するには、**restriction create** コマンドを参照してください。規制テーブルを設定するには、下の「関連コマンド」の項を参照してください。

例

次の例では、fax-restriction という規制テーブルがファックス機能に関連付けられます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail fax restriction fax-restriction
```

関連コマンド

コマンド	説明
restriction create	規制テーブルを作成します。
restriction dial-string	規制される番号のダイヤルパターンを指定します。
restriction max-digits	規制される番号の最大桁数を指定します。
restriction min-digits	規制される番号の最小桁数を指定します。
show fax configuration	受信と発信のファックス ゲートウェイの設定、およびメールボックスにあるファックスの送信先となるデフォルトのファックス番号を表示します。
show voicemail fax restriction-table	ファックス システムに関連付けられている規制テーブルの名前を表示します。

voicemail live-record beep duration

ライブ レコード実行中のビープ音の長さを設定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-record beep duration** コマンドを使用します。ビープ音を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。ビープ音の長さをデフォルト値の 250 ミリ秒に戻すには、このコマンドの **default** 形式を使用します。

voicemail live-record beep duration *digits*

no voicemail live-record beep duration *digits*

default voicemail live-record beep duration

シンタックスの説明

digits ライブ レコード実行中のビープ音の長さ。単位はミリ秒 (ms)。

コマンドデフォルト

ライブ レコード実行中のビープ音の長さは、250 ミリ秒に設定されています。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

3.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ライブ レコード実行中のビープ音の長さを設定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-record beep duration** コマンドを使用します。ビープ音の長さとは、ビープ音の再生を開始してから終了するまでの経過時間です。このビープ音の長さは、ミリ秒単位で設定します。範囲は 50 ~ 1000 ミリ秒です。

このコマンドの **default** 形式を使用すると、ビープ音の長さがデフォルト値の 250 ミリ秒に戻ります。

この機能の免責事項については、タイトル ページ直後の法規に関する記述を参照してください。

例

次の例では、ライブ レコード実行中のビープ音の長さが 400 ミリ秒に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail live-record beep duration 400
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail live-record	ライブ レコード機能の設定を表示します。
voicemail live-record beep interval	ライブ レコード実行中のビープ音の間隔を設定します。
voicemail live-record pilot-number	ライブ レコード機能を有効にし、Cisco Unity Express のボイスメール パイロット番号にすべての着信通話を転送する番号を設定します。

voicemail live-record beep interval

ライブ レコード実行中のビープ音の間隔を設定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-record beep interval** コマンドを使用します。ビープ音の間隔をデフォルト値の 15 秒に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

voicemail live-record beep interval *digits*

no voicemail live-record beep interval *digits*

default voicemail live-record beep interval

シンタックスの説明

digits ライブ レコード実行中のビープ音の間隔 (秒)。

コマンドデフォルト

ライブ レコード実行中のビープ音の間隔は、15 秒に設定されています。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

3.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ライブ レコード実行中のビープ音の間隔を設定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-record beep interval** コマンドを使用します。ビープ音の間隔とは、1 つのビープ音の終了から次のビープ音の開始までの経過時間です。このビープ音の間隔は、秒単位で設定します。範囲は 1 ～ 30 秒です。

このコマンドの **no** 形式と **default** 形式のどちらを使用した場合も、ビープ音の間隔がデフォルト値の 15 秒に戻ります。

この機能の免責事項については、タイトル ページ直後の法規に関する記述を参照してください。

例

次の例では、ライブ レコード実行中のビープ音の間隔が 10 秒に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail live-record beep interval 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail live-record	ライブ レコード機能の設定を表示します。
voicemail live-record beep duration	ライブ レコード実行中のビープ音の長さを設定します。
voicemail live-record pilot-number	ライブ レコード機能を有効にし、Cisco Unity Express のボイスメール パイロット番号にすべての着信通話を転送する番号を設定します。

voicemail live-record pilot-number

ライブレコード機能を有効にし、Cisco Unity Express ボイスメールパイロット番号にすべての着信通話を転送する番号を設定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-record pilot-number** コマンドを使用します。ライブレコード機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

voicemail live-record pilot-number *digits*

no voicemail live-record pilot-number *digits*

default voicemail live-record pilot-number

シンタックスの説明

digits すべてのライブレコードセッションを開始する通話転送番号。

コマンドデフォルト

ライブレコード機能は無効になっていて、パイロット番号は設定されていません。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

3.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ライブレコード機能を有効にし、Cisco Unity Express ボイスメールパイロット番号にすべての着信通話を転送する番号を設定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-record pilot-number** コマンドを使用します。この番号から転送され、Cisco Unity Express ボイスメールパイロット番号で終了したすべての通話は、通常のボイスメールグリーティングをバイパスし、発信者がユーザである場合、すぐに録音が始まります。

この機能の免責事項については、タイトルページ直後の法規に関する記述を参照してください。

例

次の例では、ライブレコードパイロット番号が 0112 に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail live-record pilot-number 0112
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail live-record	ライブレコード機能の設定を表示します。
voicemail live-record beep duration	ライブレコード実行中のビープ音の長さを設定します。
voicemail live-record beep interval	ライブレコード実行中のビープ音の間隔を設定します。

voicemail live-reply calling-number-rule

コンフィギュレーションおよび VPIM ボイス カード データから Live Reply 内線番号を派生させる方法を指定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-reply calling-number-rule** コマンドを使用します。発信者番号規則をデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

voicemail live-reply calling-number-rule {extension | prefix-extension | location-extension | location-prefix-extension | prefix-location-extension}

no voicemail live-reply calling-number-rule {extension | prefix-extension | location-extension | location-prefix-extension | prefix-location-extension}

default voicemail live-reply calling-number-rule

シンタックスの説明

extension	E.164 電話番号として、送信者のメールアドレス ID を使用します。この番号は、 <i>VPIM message header from</i> フィールドの、@ 文字の前の数字です。
prefix-extension	設定済みのネットワーク ロケーションプレフィックス、送信者のメールアドレス ID の順に使用します。ネットワーク ロケーションプレフィックスは、コマンド voicemail phone-prefix prefix-digits と location サブコマンドで指定します。
location-extension	ネットワーク ロケーション ID、送信者のメールアドレス ID の順に使用します。ネットワーク ロケーション ID は、ネットワーク ロケーションを定義するときに、コマンド network location id location-digits で指定します。
location-prefix-extension	ネットワーク ロケーション ID、ネットワーク ロケーションプレフィックス、メールアドレス ID の順に使用します。
prefix-location-extension	ネットワーク ロケーションプレフィックス、ネットワーク ロケーション ID、メールアドレス ID の順に使用します。

コマンドデフォルト

発信者番号規則は **extension** に設定されています。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express	
バージョン	変更点
3.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

コンフィギュレーションおよび VPIM ボイス カード データから Live Reply 内線番号を派生させる方法を指定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-reply calling-number-rule** コマンドを使用します。このコマンドの **default** 形式または **no** 形式を使用すると、**extension** 設定を使用するデフォルトの状態に発信者番号規則を戻すことができます。

例 次の例では、ネットワーク ロケーション ID、ネットワーク ロケーションプレフィックス、メールボックス ID の組み合わせをこの順序で使用することで Live Reply 内線番号を派生させるように指定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail live-reply calling-number-rule
location-prefix-extension
```

次のように設定されているときに、このコマンドを使用したとします。

- ロケーション ID が 112 に設定されている
- ロケーションプレフィックスが 444 に設定されている
- 着信 VPIM メッセージのメールボックス ID が 5678 に設定されている

この場合、Live Reply 内線番号は 112-444-5678 になります。

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail live-reply	Live Reply 機能の設定を表示します。
show voicemail live-reply restriction-table	Live Reply 機能に関連付けられている規制テーブルの情報を表示します。

voicemail live-reply enable

Live Reply 機能をシステム レベルで有効にするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-reply enable** コマンドを使用します。Live Reply 機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式および **default** 形式を使用します。

voicemail live-reply enable

no voicemail live-reply enable

default voicemail live-reply enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

コマンドデフォルト Live Reply 機能は無効になっています。

コマンドモード Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴	Cisco Unity Express	
	バージョン	変更点
	3.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン Live Reply 機能をシステム レベルで有効にするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-reply enable** コマンドを使用します。

例 次の例では、Live Reply 機能が有効になります。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail live-reply enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show voicemail live-reply	Live Reply 機能の設定を表示します。
	show voicemail live-reply restriction-table	Live Reply 機能に関連付けられている規制テーブルの情報を表示します。

voicemail live-reply network precedence

Live Reply に使用する E.164 番号を派生させる優先順位を指定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-reply network-precedence** コマンドを使用します。発信者番号規則をデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

```
voicemail live-reply network-precedence {phonenumE164 [calling-number-rule] |
calling-number-rule}
```

```
no voicemail live-reply network-precedence {phonenumE164 [calling-number-rule] |
calling-number-rule}
```

```
default voicemail live-reply network-precedence
```

シンタックスの説明

phonenumE164	Live Reply は、リモート ユーザの E.164 情報が含まれる受信 VPIM メッセージだけで続行できます。事実上、これによって発信者番号規則が無効になります。
phonenumE164 calling-number-rule	E.164 番号が VPIM メッセージに含まれていない場合に、Live Reply は発信者番号規則を使用できます。VPIM メッセージにリモート ユーザの E.164 情報が含まれている場合は、事実上、これによって発信者番号規則が無効になります。
calling-number-rule	Live Reply は、発信者番号規則を使用して、リモート ユーザの E.164 番号を派生させます。発信者番号規則を設定するには、 voicemail live-reply calling-number-rule コマンドを使用します。この設定によって、リモート Cisco Unity Express ノードから VPIM メッセージで渡された E.164 番号が使用されなくなります (E.164 番号がある場合)。

コマンドデフォルト

Live Reply 機能は、VPIM 経由で配信されたボイスメールには使用できません。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express バージョン	変更点
3.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Live Reply に使用する E.164 番号を、リモート ユーザの E.164 番号を使用して派生させるか、VPIM メッセージまたはボイス カード情報に埋め込まれている E.164 番号を使用して派生させるかという優先順位を指定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-reply network-precedence** コマンドを使用します。

デフォルトでは、**voicemail live-reply calling-number-rule** コマンドで定義された発信者番号規則から派生された E.164 番号よりも、VPIM メッセージに含まれる送信者の E.164 番号が優先され (E.164 番号がある場合)、使用されます。VPIM メッセージで E.164 番号が送信されない場合、システムはフォールバックし、発信者番号規則からリモート ユーザの番号を派生させます。このデフォルトは、**voicemail live-reply network-precedence phonenumE164 calling-number-rule** コマンドを使用することに対応します。

例 次の例では、Live Reply に使用する E.164 番号を発信者番号規則から派生させるように指定しています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail live-reply network-precedence calling-number-rule
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show voicemail live-reply</code>	Live Reply 機能の設定を表示します。
<code>show voicemail live-reply restriction-table</code>	Live Reply 機能に関連付けられている規制テーブルの情報を表示します。
<code>voicemail live-reply enable</code>	Live Reply 機能をシステム レベルで有効にします。

voicemail live-reply restriction

規制テーブルを Live Reply 機能に関連付けるには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail live-reply restriction** コマンドを使用します。関連付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail live-reply restriction *table-name*

no voicemail live-reply restriction *table-name*

シンタックスの説明	<i>table-name</i> Live Reply 機能に関連付ける規制テーブル。																
コマンドデフォルト	Live Reply 機能に関連付けられている規制テーブルはありません。																
コマンドモード	Cisco Unity Express 設定																
コマンド履歴	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">Cisco Unity Express バージョン</th> <th style="text-align: left;">変更点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.0</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	Cisco Unity Express バージョン	変更点	3.0	このコマンドが導入されました。												
Cisco Unity Express バージョン	変更点																
3.0	このコマンドが導入されました。																
使用上のガイドライン	<p>規制テーブルを Live Reply 機能に関連付けるには、Cisco Unity Express 設定モードで voicemail live-reply restriction コマンドを使用します。</p> <p>規制テーブルが存在しない場合は、エラーメッセージが表示されます。規制テーブルを作成するには、restriction create コマンドを参照してください。規制テーブルを設定するには、下の「関連コマンド」の項を参照してください。</p>																
例	<p>次の例では、live-reply-restriction という規制テーブルがメッセージ通知機能に関連付けられます。</p> <pre>se-10-0-0-0# config t se-10-0-0-0(config)# voicemail live-reply restriction live-reply-restriction</pre>																
関連コマンド	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">コマンド</th> <th style="text-align: left;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>restriction create</td> <td>規制テーブルを作成します。</td> </tr> <tr> <td>restriction delete</td> <td>規制テーブルを削除します。</td> </tr> <tr> <td>show voicemail live-reply</td> <td>Live Reply 機能の設定を表示します。</td> </tr> <tr> <td>show voicemail live-reply restriction-table</td> <td>Live Reply 機能に関連付けられている規制テーブルの情報を表示します。</td> </tr> <tr> <td>restriction dial-string</td> <td>規制される番号のダイヤルパターンを指定します。</td> </tr> <tr> <td>restriction max-digits</td> <td>規制される番号の最大桁数を指定します。</td> </tr> <tr> <td>restriction min-digits</td> <td>規制される番号の最小桁数を指定します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	restriction create	規制テーブルを作成します。	restriction delete	規制テーブルを削除します。	show voicemail live-reply	Live Reply 機能の設定を表示します。	show voicemail live-reply restriction-table	Live Reply 機能に関連付けられている規制テーブルの情報を表示します。	restriction dial-string	規制される番号のダイヤルパターンを指定します。	restriction max-digits	規制される番号の最大桁数を指定します。	restriction min-digits	規制される番号の最小桁数を指定します。
コマンド	説明																
restriction create	規制テーブルを作成します。																
restriction delete	規制テーブルを削除します。																
show voicemail live-reply	Live Reply 機能の設定を表示します。																
show voicemail live-reply restriction-table	Live Reply 機能に関連付けられている規制テーブルの情報を表示します。																
restriction dial-string	規制される番号のダイヤルパターンを指定します。																
restriction max-digits	規制される番号の最大桁数を指定します。																
restriction min-digits	規制される番号の最小桁数を指定します。																

voicemail mailbox-selection

転送された通話のメッセージを保存する宛先ボイスメールボックスを選択するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail mailbox-selection** コマンドを使用します。メールボックスをデフォルト値に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail mailbox-selection {*last-redirect* | *original-called*}

no voicemail mailbox-selection

シンタックスの説明

<i>last-redirect</i>	リダイレクトされた通話の最終受信者（LRD）の番号のメールボックス。
<i>original-called</i>	元の発信者（OCN）の番号のメールボックス。

デフォルト

デフォルトのメールボックスは LRD です。

コマンド モード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express リリース	変更点
2.3	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このパラメータはシステム全体のパラメータで、内線番号ごとに変更することはできません。

このコマンドは、転送された通話に対する応答がなかったときにボイスメール メッセージを受信する宛先メールボックスを指定します。

たとえば、発信者 A がユーザ B を呼び出し、ユーザ B がこの通話をユーザ C に転送し、ユーザ C が通話に回答しなかった場合について考えます。ユーザ B の内線が OCN で、ユーザ C の内線が LRD です。OCN を設定した場合、発信者 A のメッセージはユーザ B のメールボックスに保存されます。LRD を設定した場合、発信者 A のメッセージはユーザ C のメールボックスに保存されます。

LRD オプションは、Cisco Unity Express、Cisco Unified CME、および Cisco Unified Communications Manager の以前のリリースと下位互換性があります。

Cisco Unified CME プラットフォームの Cisco Unity Express に OCN オプションを設定する場合は、それに対応して Cisco Unified CME を設定する必要があります。Cisco Unified Communications Manager プラットフォームの Cisco Unity Express に OCN を設定する場合は、Cisco Unified Communications Manager での追加の設定は必要ありません。



(注)

- メールボックス選択オプションは、次のシナリオでは機能しません。
 - 2 つの Cisco Unity Express モジュールをネットワーク接続している Cisco Unified CME システムで、OCN オプションを選択する。
 - ボイスメール プロファイルが設定されていない 2 つの Cisco Unity Express モジュールをネットワーク接続している Cisco Unified Communications Manager システムで、OCN オプションを選択する。
 - ボイスメール プロファイルが設定されている 2 つの Cisco Unity Express モジュールをネットワーク接続している Cisco Unified Communications Manager システムで、LRD オプションを選択する。

例 次の例では、転送された通話からのボイスメールメッセージを保存するデフォルトのメールボックスとして OCN が設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail mailbox-selection original-called
se-10-0-0-0(config)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail	設定されているシステム全体のボイスメールパラメータを表示します。

voicemail message future delete

後で配信するためにキューイングされているメッセージを削除するには、Cisco Unity Express EXEC モードで **voicemail message future delete** コマンドを使用します。

voicemail message future *message-id delete*

シンタックスの説明

<i>message-id</i>	スケジューリングされているメッセージのメッセージ ID。スケジューリングされているメッセージのメッセージ ID を表示するには、 show voicemail messages future コマンドを使用します。
-------------------	--

デフォルト

このコマンドには、デフォルトのメッセージ ID はありません。

コマンドモード

Cisco Unity Express EXEC

コマンド履歴

Cisco Unity Express リリース		変更点
2.3		このコマンドが、NM-CUE、NM-CUE-EC、および AIM-CUE で導入されました。

使用上のガイドライン

message-id が存在しない場合、または後で配信するようにスケジューリングされているメッセージに *message-id* が属していない場合、エラー メッセージが表示されます。

例

出力例を次に示します。

```
se-10-0-0-0# voicemail message future JMX0637L023-NM-FOC08221WRB-731357131983 delete
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail	後で配信するためにキューイングされているメッセージの番号を表示します。
show voicemail messages future	後で配信するためにキューイングされているメッセージをすべて表示します。

voicemail non-subscriber restriction

規制テーブルをユーザ以外へのメッセージ配信機能に関連付けるには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail non-subscriber restriction** コマンドを使用します。関連付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail non-subscriber restriction *table-name*

no voicemail non-subscriber restriction *table-name*

シンタックスの説明

table-name ユーザ以外へのメッセージ配信機能に関連付ける規制テーブル。

コマンドデフォルト

ユーザ以外へのメッセージ配信機能に関連付けられている規制テーブルはありません。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

3.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

規制テーブルをユーザ以外へのメッセージ配信機能に関連付けるには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail non-subscriber restriction** コマンドを使用します。

規制テーブルが存在しない場合は、エラーメッセージが表示されます。規制テーブルを作成するには、**restriction create** コマンドを参照してください。規制テーブルを設定するには、「関連コマンド」の項を参照してください。

例

次の例では、non-subscriber-restrict という規制テーブルがユーザ以外へのメッセージ配信機能に関連付けられます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail non-subscriber restriction non-subscriber-restrict
```

関連コマンド

コマンド	説明
restriction create	規制テーブルを作成します。
restriction delete	規制テーブルを削除します。
show voicemail non-subscriber restriction-table	ユーザ以外へのメッセージ配信機能に関連付けられている規制テーブルの名前を表示します。
restriction dial-string	規制される番号のダイヤルパターンを指定します。
restriction max-digits	規制される番号の最大桁数を指定します。
restriction min-digits	規制される番号の最小桁数を指定します。

voicemail notification allow-login

通知通話の発信中に、ユーザがボイスメールにログインできるようにするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail notification allow-login** コマンドを使用します。通知通話の実行中に、ユーザがボイスメールにアクセスできないようにするには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

voicemail notification allow-login

no voicemail notification allow-login

default voicemail notification allow-login

シンタックスの説明 このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

デフォルト ボイスメールへのログインは無効になっています。

コマンドモード Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴	Cisco Unity Express	
	リリース	変更点
	2.3	このコマンドが、NM-CUE、NM-CUE-EC、および AIM-CUE で導入されました。

使用上のガイドライン メッセージ通知機能をシステム全体で有効にした後、**voicemail notification allow-login** コマンドを使用します。

この機能は、電話デバイスでのみ使用できます。

機能が有効になっている場合、システムはユーザに対し、ボイスメールにログインしてメッセージを受信するオプションを提供します。

機能が無効になっている場合、システムは通知プロンプトを 3 回再生してから、通知通話を切断します。

例 次の例では、通知通話中のボイスメールへのログインが有効になります。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification enable
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification allow-login
```

関連コマンド	コマンド	説明
	voicemail notification connect-timeout	メッセージ タイムアウトの長さを設定します。
	voicemail notification email attach	電子メール メッセージ通知にボイス メッセージを添付できるようにします。
	voicemail notification enable	メッセージ通知機能を有効にします。
	voicemail notification owner	特定のユーザまたはグループへのメッセージ通知を有効にします。

コマンド	説明
<code>voicemail notification preference</code>	メッセージ通知プリファレンスのタイプを設定します。
<code>show voicemail notification</code>	通知に関するシステム全体の設定を表示します。
<code>show voicemail notification owner</code>	特定のユーザまたはグループの通知情報を表示します。
<code>show voicemail notification restriction-table</code>	規制テーブルの設定を表示します。

voicemail notification cascading enable

通知カスケード機能をシステム レベルで有効にするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail notification cascading enable** コマンドを使用します。通知カスケード機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail notification cascading enable

no voicemail notification cascading enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

コマンドデフォルト 通知カスケード機能は無効になっています。

コマンドモード Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

バージョン

変更点

3.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 通知カスケード機能をシステム レベルで有効にするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail notification cascading enable** コマンドを使用します。

例 次の例では、通知カスケード機能が有効になります。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification cascading enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail msg-notification restriction-table	ユーザ以外へのメッセージ配信機能に関連付けられている規制テーブルの情報を表示します。
show voicemail notification	メッセージ通知の設定を表示します。
show voicemail notification owner cascade	指定したユーザまたはグループのメッセージ通知設定の詳細を表示します。

voicemail notification connect-timeout

システムが通知通話を切断するまでの時間を指定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail notification connect-timeout** コマンドを使用します。接続時間をデフォルトに設定するには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

voicemail notification connect-timeout *seconds*

no voicemail notification connect-timeout

default voicemail notification connect-timeout

シンタックスの説明

seconds システムが切断するまでの、通知通話の接続を試行する秒数。有効な値は 12 ～ 96 秒です。デフォルトは 48 秒です。

デフォルト

接続タイムアウトは 48 秒です。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

リリース 変更点

2.3 このコマンドが、NM-CUE、NM-CUE-EC、および AIM-CUE で導入されました。

使用上のガイドライン

メッセージ通知機能をシステム全体で有効にした後、このコマンドを使用します。

このコマンドの適用対象は、電話デバイスと数字対応デバイスのみです。

システムは、切断した通話を失敗した通話として扱います。

例

次の例では、接続タイムアウトが 75 秒に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification enable
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification connect-timeout 75
```

関連コマンド

コマンド	説明
voicemail notification allow-login	メッセージ通知通話での電子メール ログインを設定します。
voicemail notification email attach	電子メール メッセージ通知にボイス メッセージを添付できるようにします。
voicemail notification enable	メッセージ通知機能を有効にします。
voicemail notification owner	特定のユーザまたはグループへのメッセージ通知を有効にします。
voicemail notification preference	メッセージ通知プリファレンスのタイプを設定します。
show voicemail notification	通知に関するシステム全体の設定を表示します。

コマンド	説明
<code>show voicemail notification owner</code>	特定のユーザまたはグループの通知情報を表示します。
<code>show voicemail notification restriction-table</code>	規制テーブルの設定を表示します。

voicemail notification email attach

電子メール通知にボイス メッセージを添付できるようにするには、Cisco Unity Express 設定モードで `voicemail notification email attach` コマンドを使用します。ユーザまたはグループが電子メール通知にボイス メッセージを添付できないようにするには、このコマンドの `no` 形式または `default` 形式を使用します。

`voicemail notification email attach`

`no voicemail notification email attach`

`default voicemail notification email attach`

シンタックスの説明 このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

デフォルト 電子メール添付は無効になっています。

コマンド モード Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴	Cisco Unity Express	
	リリース	変更点
2.3		このコマンドが、NM-CUE、NM-CUE-EC、および AIM-CUE で導入されました。

使用上のガイドライン メッセージ通知をシステム全体で有効にした後、このコマンドを使用します。

管理者は、特定のユーザまたはグループに対するこの設定を、システム全体の設定とは異なる値に変更できます。

この設定にかかわらず、システムは、通知電子メールにプライベート メッセージを添付しません。

このシステム全体の設定を管理者が有効から無効に変更した場合、すべてのユーザおよびグループに対して、この機能は無効になります。

このシステム全体の設定を管理者が無効から有効に変更した場合、個別に設定されたユーザまたはグループの設定は変更されません。

例 次の例では、電子メール通知へのボイス メッセージの添付が有効になります。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification email attach
```

関連コマンド

コマンド	説明
voicemail notification allow-login	メッセージ通知通話での電子メール ログインを設定します。
voicemail notification connect-timeout	メッセージタイムアウトの長さを設定します。
voicemail notification enable	メッセージ通知機能を有効にします。
voicemail notification owner	特定のユーザまたはグループへのメッセージ通知を有効にします。
voicemail notification preference	メッセージ通知プリファレンスのタイプを設定します。
show voicemail notification	通知に関するシステム全体の設定を表示します。
show voicemail notification owner	特定のユーザまたはグループの通知情報を表示します。
show voicemail notification restriction-table	規制テーブルの設定を表示します。

voicemail notification enable

システム全体でメッセージ通知を有効にするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail notification enable** コマンドを使用します。システム全体でメッセージ通知を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail notification enable

no voicemail notification enable

シンタックスの説明

このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

デフォルト

メッセージ通知は無効になっています。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express リリース	変更点
2.3	このコマンドが、NM-CUE、NM-CUE-EC、および AIM-CUE で導入されました。

使用上のガイドライン

この機能は、管理者によって最初に有効にされたときに、すべてのユーザおよびグループに対して有効になるわけではありません。特定のユーザまたはグループがこの機能へのアクセスを必要とする場合に、管理者は、これらのユーザまたはグループに対して個別にメッセージ通知を有効にできます。ユーザまたはグループには、それぞれに割り当てられているメールボックスが必要です。

テキストメッセージのメッセージ通知は、SMTP サーバを使用する必要があります。このコマンドを実行したときに SMTP サーバが設定されていない場合、電子メール通知および文字対応デバイスへの通知が機能しないというメッセージが表示されます。

例

次の例では、メッセージ通知が有効になります。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
voicemail notification allow-login	メッセージ通知通話での電子メール ログインを設定します。
voicemail notification connect-timeout	メッセージタイムアウトの長さを設定します。
voicemail notification email attach	電子メールメッセージ通知にボイスメッセージを添付できるようにします。
voicemail notification owner	特定のユーザまたはグループへのメッセージ通知を有効にします。
voicemail notification preference	メッセージ通知プリファレンスのタイプを設定します。
show voicemail notification	通知に関するシステム全体の設定を表示します。

コマンド	説明
<code>show voicemail notification owner</code>	特定のユーザまたはグループの通知情報を表示します。
<code>show voicemail notification restriction-table</code>	規制テーブルの設定を表示します。

voicemail notification owner

特定のユーザまたはグループに対してメッセージ通知を有効にするには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail notification owner** コマンドを使用します。特定のユーザまたはグループに対してメッセージ通知を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail notification owner user-id enable

no voicemail notification owner user-id

シンタックスの説明

user-id メッセージ通知を有効にする既存のユーザまたはグループの ID。

デフォルト

メッセージ通知は無効になっています。

コマンド モード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

リリース	変更点
2.3	このコマンドが、NM-CUE、NM-CUE-EC、および AIM-CUE で導入されました。

使用上のガイドライン

ユーザまたはグループのメッセージ通知を有効にするには、システム全体でメッセージ通知機能を有効にした後、このコマンドを使用します。システム全体で機能が有効になっていない場合、エラーメッセージが表示されます。

メッセージ通知を有効にする前に、ユーザまたはグループがシステムに存在していて、ボイスメールボックスを持っている必要があります。ユーザまたはグループが存在しない場合、またはユーザまたはグループにメールボックスがない場合、エラーメッセージが表示されます。

システム全体で機能が無効になっている場合、すべてのユーザおよびグループで機能が無効になります。ただし、ユーザおよびグループのデバイス設定は削除されません。機能を再び有効にすると、システムは、ユーザおよびグループの設定をシステム全体で無効にする前と同じ設定に復元します。

メッセージ通知がシステム全体で有効なときに、管理者が新しいユーザまたはグループを追加した場合、そのユーザまたはグループに対してこの機能は無効です。

例 次の例では、user3 およびグループ sales に対して、メッセージ通知が有効になります。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification enable
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification owner user3 enable
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification owner sales enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
voicemail notification allow-login	メッセージ通知通話での電子メール ログインを設定します。
voicemail notification connect-timeout	メッセージタイムアウトの長さを設定します。
voicemail notification email attach	電子メール メッセージ通知にボイス メッセージを添付できるようにします。
voicemail notification enable	メッセージ通知機能を有効にします。
voicemail notification preference	メッセージ通知プリファレンスのタイプを設定します。
show voicemail notification	通知に関するシステム全体の設定を表示します。
show voicemail notification owner	特定のユーザまたはグループの通知情報を表示します。
show voicemail notification restriction-table	規制テーブルの設定を表示します。

voicemail notification preference

システム全体のメッセージ通知プリファレンスを指定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail notification preference** コマンドを使用します。プリファレンスをシステム全体で **urgent** に設定するには、このコマンドの **no** 形式または **default** 形式を使用します。

voicemail notification preference {*all* | *urgent*}

no voicemail notification preference

default voicemail notification preference

シンタックスの説明

all	プリファレンスを all に設定して、すべての受信ボイス メッセージに対して通知を送信します。
urgent	プリファレンスを urgent に設定して、緊急のボイス メッセージに対してのみ通知を送信します。 urgent がデフォルトのプリファレンスです。

デフォルト

メッセージ通知のプリファレンスは **urgent** です。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express	
リリース	変更点
2.3	このコマンドが、NM-CUE、NM-CUE-EC、および AIM-CUE で導入されました。

使用上のガイドライン

メッセージ通知機能をシステム全体で有効にした後、このコマンドを使用して、システム全体のプリファレンスを設定します。

管理者は、特定のユーザまたはグループのプリファレンスを、システム全体の設定とは異なる値に設定できます。

管理者がシステム全体のプリファレンスを **all** から **urgent** に変更した場合、すべてのユーザおよびグループのプリファレンスが **urgent** に変更されます。

管理者がシステム全体のプリファレンスを **urgent** から **all** に変更した場合、個別に設定されたユーザまたはグループのプリファレンスは変更されません。

例

次の例では、通知プリファレンスが **all** に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification enable
se-10-0-0-0(config)# voicemail notification preference all
```

関連コマンド

コマンド	説明
voicemail notification allow-login	メッセージ通知通話での電子メール ログインを設定します。
voicemail notification connect-timeout	メッセージタイムアウトの長さを設定します。

コマンド	説明
<code>voicemail notification email attach</code>	電子メール メッセージ通知にボイス メッセージを添付できるようにします。
<code>voicemail notification enable</code>	メッセージ通知機能を有効にします。
<code>voicemail notification owner</code>	特定のユーザまたはグループへのメッセージ通知を有効にします。
<code>show voicemail notification</code>	通知に関するシステム全体の設定を表示します。
<code>show voicemail notification owner</code>	特定のユーザまたはグループの通知情報を表示します。
<code>show voicemail notification restriction-table</code>	規制テーブルの設定を表示します。

voicemail operator telephone

ボイスメール オペレータとして内線番号を割り当てるには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail operator telephone** コマンドを使用します。オペレータの内線番号をデフォルト値に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail operator telephone *tel-number*

no voicemail operator telephone

シンタックスの説明

tel-number ボイスメール オペレータの内線番号。

デフォルト

デフォルトのオペレータの内線番号は 0 です。

コマンドモード

Cisco Unity Express 設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

リリース	変更点
1.0	このコマンドが、Cisco Unity Express ネットワーク モジュールおよび Cisco Unified Communications Manager Express 3.0 で導入されました。
1.1	このコマンドが、拡張統合モジュール (AIM) および Cisco Unified Communications Manager 3.3(3) で実装されました。
1.1.2	このコマンドが、Cisco 2800 シリーズおよび Cisco 3800 シリーズのルータで実装されました。

使用上のガイドライン

メールボックスの所有者は、ボイスメール システムでボイスメール オペレータにアクセスする際、この内線番号にダイヤルします。この内線番号をグループに割り当てないでください。

このオペレータの内線番号は、自動受付オペレータの内線番号と同じである必要はありません。同じである場合、ボイスメールを使用しているときにオペレータの内線番号をダイヤルしたボイスメール ユーザは、自動受付メニューに到達し、次に「0」を押すと、オペレータに到達します。

例

次の例では、ボイスメール オペレータとして内線 9000 が割り当てられます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# voicemail operator telephone 9000
```

関連コマンド

コマンド	説明
show voicemail limits	ブロードキャストメッセージを含めて、ボイスメールボックスおよびメッセージに関する制限を表示します。

voicemail phone-prefix (network location id)

ネットワーク ロケーションのボイスメール電話番号プレフィックスを設定するには、Cisco Unity Express ロケーション設定モードで **voicemail phone-prefix** コマンドを使用します。プレフィックスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail phone-prefix *number*

no voicemail phone-prefix *number*

シンタックスの説明	<i>number</i>	電話番号プレフィックスは内線に追加され、そのネットワーク ロケーションのユーザのインターネット メッセージ用音声プロファイル (VPIM) アドレスを作成します。有効な値は 1 ~ 15 桁です。
デフォルト		デフォルト値は空文字列です。
コマンドモード		Cisco Unity Express ロケーション設定
コマンド履歴	Cisco Unity Express	
	リリース	変更点
	2.0	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン		プレフィックスは、電子メール ドメインが複数のロケーションをサポートし、ロケーション間の内線番号が一意でない場合にだけ必要です。
例		次の例では、ネットワーク ロケーション 484 にボイスメール電話プレフィックス 345 が割り当てられています。 <pre>se-10-0-0-0(config)# network location id 484 se-10-0-0-0(config-location)# voicemail phone-prefix 345 se-10-0-0-0(config-location)# end</pre>
関連コマンド	コマンド	説明
	show network detail location id	特定のネットワーク ロケーションの詳細を表示します。

voicemail recording time

メッセージまたはグリーティングの最長録音時間を指定するには、Cisco Unity Express 設定モードで **voicemail recording time** コマンドを使用します。最長録音時間をデフォルト値に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail recording time *seconds*

no voicemail recording time

シンタックスの説明	<i>seconds</i>	ボイスメール システムで録音されるメッセージまたはグリーティングの最大秒数。有効な値の範囲は 10 ~ 3600 です。															
デフォルト	900 秒																
コマンドモード	Cisco Unity Express 設定																
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">Cisco Unity Express</th> </tr> <tr> <th>リリース</th> <th colspan="2">変更点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.0</td> <td colspan="2">このコマンドが、Cisco Unity Express ネットワーク モジュールおよび Cisco Unified Communications Manager Express 3.0 で導入されました。</td> </tr> <tr> <td>1.1</td> <td colspan="2">このコマンドが、拡張統合モジュール (AIM) および Cisco Unified Communications Manager 3.3(3) で実装されました。</td> </tr> <tr> <td>1.1.2</td> <td colspan="2">このコマンドが、Cisco 2800 シリーズおよび Cisco 3800 シリーズのルータで実装されました。</td> </tr> </tbody> </table>		Cisco Unity Express			リリース	変更点		1.0	このコマンドが、Cisco Unity Express ネットワーク モジュールおよび Cisco Unified Communications Manager Express 3.0 で導入されました。		1.1	このコマンドが、拡張統合モジュール (AIM) および Cisco Unified Communications Manager 3.3(3) で実装されました。		1.1.2	このコマンドが、Cisco 2800 シリーズおよび Cisco 3800 シリーズのルータで実装されました。	
Cisco Unity Express																	
リリース	変更点																
1.0	このコマンドが、Cisco Unity Express ネットワーク モジュールおよび Cisco Unified Communications Manager Express 3.0 で導入されました。																
1.1	このコマンドが、拡張統合モジュール (AIM) および Cisco Unified Communications Manager 3.3(3) で実装されました。																
1.1.2	このコマンドが、Cisco 2800 シリーズおよび Cisco 3800 シリーズのルータで実装されました。																
使用上のガイドライン	このコマンドは、録音される任意のボイスメール メッセージおよびグリーティングの最大長を設定します。許容される最大値は、Cisco Unity Express モジュールの容量によって決まります。																
例	次の例では、メッセージまたはグリーティングの最大録音時間が 15 分に設定されます。 <pre>se-10-0-0-0# config t se-10-0-0-0(config)# voicemail recording time 15</pre>																
関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>show voicemail limits</td> <td>ブロードキャスト メッセージを含めて、ボイスメールボックスおよびメッセージに関する制限を表示します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	show voicemail limits	ブロードキャスト メッセージを含めて、ボイスメールボックスおよびメッセージに関する制限を表示します。												
コマンド	説明																
show voicemail limits	ブロードキャスト メッセージを含めて、ボイスメールボックスおよびメッセージに関する制限を表示します。																

voicemail spoken-name (network location id)

ボイスメール発信者の音声名をボイスメールメッセージの一部として送信できるようにするには、Cisco Unity Express ロケーション設定モードで **voicemail spoken-name** コマンドを使用します。音声名の送信を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail spoken-name

no voicemail spoken-name

シンタックスの説明 このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

デフォルト このコマンドは有効です。

コマンドモード Cisco Unity Express ロケーション設定

コマンド履歴	Cisco Unity Express	
	リリース	変更点
2.0		このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 音声名の送信が有効な場合、発信したユーザの録音名が、受信されたメッセージの冒頭で再生されます。

例 次の例では、このロケーションで音声名の再生が有効になります。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# network location id 9
se-10-0-0-0(config-location)# voicemail spoken-name
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show network detail location id	ネットワーク ロケーションの詳細設定を表示します。

voicemail vcard

ネットワーク ロケーションで vCard 情報を受信できるようにするには、Cisco Unity Express ロケーション設定モードで **voicemail vcard** コマンドを使用します。vCard 情報の受信を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

voicemail vcard

no voicemail vcard

シンタックスの説明

このコマンドには、引数およびキーワードはありません。

デフォルト

vCard 情報が送信されます。

コマンド モード

Cisco Unity Express ロケーション設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express

リリース	変更点
2.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

リモート ユーザの vCard 情報には、ユーザの名、姓、および内線番号が含まれています。Cisco Unity Express は、着信インターネット メッセージ用音声プロファイル (VPIM) メッセージの vCard 情報と録音された音声名を使用して、リモート ユーザ情報に関する LRU キャッシュのデータ入力と更新を行います (音声名の設定の詳細については、『*Cisco Unity Express 2.3 CLI Administrator Guide*』のネットワークの章を参照してください)。

メッセージの宛先にリモート ユーザを指定する場合、ローカル送信者には、目的の受信者の確認として音声名が再生されます。LRU キャッシュは、音声名のソースの 1 つです。

NM-CUE-EC では最大 100 ユーザ、NM-CUE では 50 ユーザ、AIM-CUE では 20 ユーザが LRU キャッシュに保存されます。

例

次の例では、ネットワーク ロケーション 23 および nyc での vCard 情報の受信が有効になります。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# network location 23
se-10-0-0-0(config-location)# voicemail vcard
se-10-0-0-0(config-location)# end
se-10-0-0-0(config)# network location nyc
se-10-0-0-0(config-location)# voicemail vcard
se-10-0-0-0(config-location)# end
se-10-0-0-0(config)# exit
```

次の例では、ネットワーク ロケーション nyc での vCard 情報の受信が無効になります。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# network location nyc
se-10-0-0-0(config-location)# no voicemail vcard

se-10-0-0-0(config-location)# end
se-10-0-0-0(config)# exit
```


関連コマンド

コマンド	説明
<code>network location</code>	リモートサイトのネットワーク ID を指定します。
<code>show network detail local</code>	ローカル システムのネットワーク詳細を表示します。
<code>show network detail location id</code>	特定のロケーションのネットワーク詳細を表示します。

voicemail vpim-encoding (network location id)

Cisco Unity Express ロケーションから別のロケーションにボイスメールメッセージを転送するときには、使用する符号化方式を設定するには、Cisco Unity Express ロケーション設定モードで **voicemail vpim-encoding** コマンドを使用します。符号化方式をデフォルト値に設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
voicemail vpim-encoding {dynamic | G711ulaw | G726}
```

```
no voicemail vpim-encoding
```

シンタックスの説明

<i>dynamic</i>	Cisco Unity Express ロケーションは、リモート ロケーションとネゴシエートして符号化方式を決定します。
G711ulaw	Cisco Unity Express は、常にメッセージを G711 mu-law の .wav ファイルとして送信します。
G726	Cisco Unity Express は、常にメッセージを G726 (32K ADPCM) として送信します。

デフォルト

dynamic

コマンドモード

Cisco Unity Express ロケーション設定

コマンド履歴

Cisco Unity Express
リリース

変更点

2.0

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

G711 mu-law は、受信システムが G711 mu-law 符号化をサポートしている場合 (Cisco Unity など) にのみ設定します。G726 は、低帯域幅接続の場合、または Cisco Unity Express の接続先のシステムが G711 mu-law をサポートしていない場合に使用します。

例

次の例では、ネットワーク ロケーション 9 のインターネット メッセージ用音声プロファイル (VPIM) の符号化が G711 mu-law に設定されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# network location id 9
se-10-0-0-0(config-location)# voicemail vpim-encoding g711ulaw
```

関連コマンド

コマンド	説明
show network detail location id	ネットワーク ロケーションの詳細設定を表示します。